

はにい

対話のシルエット

平成26年10月1日

6月25日（水）
3年1組（30名）
美術室にて

（T：先生、C：生徒）

T：今日は「人工物のシルエットデザインを自分なりに表現していく授業です」

T：「人工物って、どんなもの？」「シルエットって何？」

生徒がイメージしやすいように、黒板にテンポよくシルエットデザインの参考例をクイズ形式で問いかけます。

T：「これなんだ？」

C（声に出して）：「傘」

T：「閉じた傘だけど、開いた傘だったらどんなになるかな？」

T：「これは？…」

C：「風鈴」

C：「洗濯バサミ」

C：「なんだっけ。家庭科で使ったよ。泡立てるやつ？」

T：「これは？…」

C：「王冠。」

C：「え～。お墓じゃないの？」「なるほど、そう見えたか…」

対話の多い導入。言葉を出し合うことによって、イメージが膨らんでいきます。



T：「ワークシートにアイデアを描いてみよう」

一人ひとり、自分なりの「シルエットのアイデアスケッチ」をしていきます。

C：「これ何に見える」

C：「飴玉？」

C：「そう。飴玉に見える。よかったあ。変になっちゃったから…」

対話しながらアイデアを考え、制作しながら対話する。対話からシルエットが創られていくようです。



C：「パイナップルって人工物？」

C：「自然物だよ」

C：「人工物？じゃあないよ…！？」
C：「じゃあ、パイナップルの缶詰めにしたら…」
C：「そうかー。むずかしいなー」

先生も、教室をまわって一人ひとりと対話してアイデアの状況を確認していきます。
その対話を周りの生徒もそっと聴いたり、体乗り出して覗き込んでいる様子。

T：「なんだろう」
T：「なるほど。Aさんバスケットボール部だもんね…」
C：「でも、ボールじゃなくて…」 「何にしようかなあ…」と悩んでいます。

C：「先生、これ（このシルエット）何に見えますか？」
T：「なんだろう」
C：「楽器なんだけど…」
T：「分かった。あれね！」 ～サクソ



一人一人のアイデアを確認しながら、
T：「Aさん。素敵なデザインを考えたね」「みんなに紹介してくれる？」と黒い紙を渡します。

今度は友だちのアイデアを使って全体で「人工物のシルエット」の共有をします。

T：「みんなのアイデアからいくつか紹介します」
子どもたちのアイデアを使ってクイズ形式で問いかけます。

T：「これなんだ？」
C：「ギター」
C：「飴玉？」
C：「…」
T：「これは？」
C：「…」
C：「UFO？」
C：「UFOって人工物？」
C：「…」



本当に、対話の多い美術の授業。

さあ、一人ひとり、自分の表したいイメージが膨らんだ？

自分のやりたいことが見つけられる。そして、自分一人では気づけなかった価値に気づくことができる。

学び合いを通して、充実した美術での創作活動へとつなげていきます。

『はにいい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp